

第7回 JR 北海道再生推進会議 議事概要

1. 日 時 平成 27 年 5 月 18 日 (月) 9 時 57 分～12 時 04 分

2. 場 所 JR 北海道 本社 8 階会議室

3. 出席者

(1) 議長・委員

宮原耕治議長、桶谷治委員、上浦正樹委員、
國廣正委員、高橋はるみ委員、高向巖委員、
向殿政男委員、吉見宏委員

(2) オブザーバー

国土交通省 武藤浩国土交通審議官、
藤田耕三鉄道局長

(3) JR 北海道

須田征男会長、島田修社長、西野史尚副社長
小山俊幸常務、山口力常務、綿貫泰之総務部長
田畑正信鉄道事業本部副本部長、木元剛経営企画部長
森雅裕安全推進部長、戸川達雄企画室長
土島一幸駅業務部長、難波寿雄車両部長
坂本孝司工務部長、土田徳造電気部長

4. 議事概要

(1) 社長冒頭挨拶

議事開始の前に社長の島田より「昨年6月から精力的に現場を視察していただき、また、活発にご議論をいただけてきた。本日議論される提言書は、当社の安全の再生に向けた取り組みを考える上で非常に大きな指針となる。本日はそうした前提となる提言書の内容について有意義な意見交換をお願い申し上げたい。」との主旨の挨拶があった。

議長により議事が開始した。

(2) 議論内容

- 北海道民の足の確保への対応について、地域性を大事にして持続可能な地域交通網を議論することが大切である。
- 安全意識の変化を把握するため、社員に対してアンケートを行う等の工夫が必要である。
- JR 北海道の問題は 20 年余りの長い間の制度疲労の問題でもある。今は意欲を持って安全意識の改革に取り組んでいるが、そのうちに元に戻ってしまうことがないように続けていくことが必要である。
- 国等への必要な働きかけを行うためにも、再生推進会議に「安全投資と修繕に関する5年間の計画」の進捗状況及びその計画に対する国の支援状況を適時適切に報告していただきたい。

(3) 平成 26 年度マネジメント・レビューについて

会社側から、国土交通省の「運輸事業者における安全管理の進め方に関するガイドライン」に基づく、平成 26 年度マネジメント・レビューについて、資料に基づき説明した。

説明後、委員から次のような意見が出された。

- 一連の事故、不祥事を風化させないで安全に関する取り組みを継続していくことが大事である。

(4) その他

会社側から、平成 27 年 4 月 3 日に発生した特急スーパー白鳥 34 号車両から白煙が出た事象について説明した。

説明の後、委員からは次のような意見が出された。

- 利用者に丁寧にわかりやすく説明することが不可欠である。